

現代中東の諸紛争を読み解く：

9.11 事件からイラク戦争、「イスラーム国」とシリア内戦まで

「中東」という言葉はどこから来たか

(ヨーロッパによる名づけ、固定的な定義はない)

中東≠イスラーム教徒

中東=イスラーム=戦争、テロ、暴力のイメージ？

本当に中東に戦争、テロが多いのか？

中東を起源とする紛争が増えた契機は、

- ① 2001: 9・11 事件に始まった「対テロ戦争」：非対称戦争
- ② 2003: イラク戦争：戦争による政権転覆
- ③ 2011: シリア内戦：国際社会不介入による周辺国の代理戦争

① 2001 年 9・11 事件／「対テロ戦争」

(i) 9.11 事件：ニューヨーク、ワシントンなどへの自爆攻撃、3000 人弱が死亡

犯人は？ サウディ人、エジプト人 =アルカーイダのメンバー

首謀者はウサーマ・ビン・ラーディン（アフガニスタンを拠点とする。出身はサウディ）

何故アルカーイダ（+アフガニスタンのターリバーン政権）が反米となったか

←遠因としての冷戦：1979 年ソ連軍のアフガニスタン軍事侵攻（共産主義化）

それを危険視する米国

（ソ連の中東進出を阻止するために重要な位置にあるアフガニスタン、イラン、トルコ）

→イスラームゲリラを利用（サウジ、パキスタンが協力）→アルカーイダの原型

+ 1991 年湾岸戦争 米軍、サウディアラビアに基地、駐留←ビンラーディンの反発

～ 9.11 攻撃

(ii) 対テロ戦争：米ブッシュ政権、アフガニスタンに「報復」

ターリバーン政権を転覆、米軍主導で新政権擁立 だが・・・

② イラク戦争（2003 年）

9.11 事件とは直接関係なし、湾岸戦争（1991 年）以来の仇敵

フセイン政権の転覆、民主化 選挙で選ばれた新政権

アフガニスタンもイラクも、戦後のほうが治安悪化、米軍の横暴→反米感情の高まり

～「イスラーム国」(IS) の出現

2006 年反米気運の強かったイラク西部に外国から「反米」テロリストがイラクに流入

→イラク内戦→2008 年ごろにはいったん掃討

しかしシリア内戦(2011年～)で拠点をシリアに移して勢力拡大、  
→2014年6月 イラクに舞い戻る

「イスラーム国」とは：厳格なイスラーム統治を主張、近代化以前の「カリフ国」の復活  
(普通のイスラーム教徒の生活ですら「宗教的ではない」として批判、他宗派を排除)  
宗教が過激化したのか、過激志向に走るものが宗教を利用しているのか?

海外から「不満分子」が流入：欧米諸国の移民系若者、社会のドロップアウトなど

### ③ シリア内戦 (2011年)

「アラブの春」(チュニジア、エジプトで始まった民主化運動)の流れで、シリアでの反独裁・反体制運動が高まる→内戦に(「イスラーム国」の登場で、さらに国土が四分五裂)

シリア内戦の被害

死者：15～47万人

難民：1350万人<国民の約6割>(うち海外500万人以上：トルコ262万人、レバノン150万人、ヨルダン140万人、ドイツ48万人、ギリシア42万人、ハンガリー38万人、セルビア31万人)

～シリアを始めとした中東・アフリカ諸国からの難民急増

2015年8月、難民の沈没事故多発が問題化 →ドイツが受け入れ表明、実際には困難

(受入国の負担度 難民流入数/国民人口：トルコ3.4%、レバノン33.6%、ヨルダン21.7%、ドイツ0.6%、ギリシア、ハンガリー3.8%、セルビア4.3%)



## 現代中東問題の根源：中東の発祥起源とパレスチナ問題

\* 中東地域の民族構成：

アラブ民族	イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、パレスチナ、エジプト、 リビア、チュニジア、アルジェリア、モロッコ、スーダン
ペルシア民族	イラン
トルコ民族	トルコ
クルド民族	(イラン、イラク、トルコ、シリアの一部)

中東の現在の国家が成立したのは、第一次世界大戦以後

以前の中東は・・・イスラーム諸王朝（7世紀～）の支配

最後のイスラーム王朝：オスマン帝国（現在のトルコを中心に）

1299年 オスマン朝成立(トルコ)～16世紀、最大版図（中東全域、東ヨーロッパ）

19世紀以降：西欧列強の南下先としての中東地域

第一次世界大戦（1914-1919年）

イギリス＝3C政策(+フランス、ロシア) vs. ドイツ＝3B政策+オスマン帝国

第一次大戦中のイギリスが中東で行った「トリプル・ブッキング」

1915年 フセイン・マクマホン協定「アラブの独立約束」

→1916年 アラブの反乱、メッカの太守フセイン、アラビアのロレンス

1916年 サイクス・ピコ協定「英仏ロシアで旧オスマン領分割」

→戦後の英仏による中東諸国の委任統治

第1次大戦後のイギリス・フランスによる中東地域間接支配

英：イラク、ヨルダン、エジプト、パレスチナ（その後のイスラエル）、湾岸諸国

仏：シリア、レバノン、チュニジア、アルジェリア

1917年 バルフォア宣言「ユダヤ人に民族的郷土を」（イギリスの戦時下財政難）

ヨーロッパでのユダヤ人迫害（19世紀～）、ユダヤ人の間で「独立国家」要求

→ユダヤ人の中東移住、1948年イスラエルの建国

パレスチナ問題を巡り、4度の中東戦争

1947年 国連パレスチナ分割決議 パレスチナ地域が「ユダヤ人地域」と「パレスチナ地域」に分割

① 1948年 イスラエル独立戦争としての第一次中東戦争

イスラエル建国によって先住民のパレスチナ人の追放、難民化（70万人）

② 1956年 アラブ民族主義意識の高揚としての第二次中東戦争

③ 1967年 第三次中東戦争、全面的なアラブの敗北

イスラエルによる占領拡大：西岸、ガザ+ゴラン高原（シリア）、シナイ半島（エジプト）

④ 1973年 第四次中東戦争=オイル・ショック、石油との関連

占領地（西岸、ガザ）の不満 1967年～ 西岸、ガザ地域はイスラエルの占領下

← 1987年から占領に反対するパレスチナ人の抵抗運動（インティファダ）が発生

1993年 オスロ合意

「西岸」「ガザ」にパレスチナ自治区設置で合意（国際社会の仲介）5年間の「部分的」自治の試み

(ア)イスラエル軍は暫時撤退し、

(イ)西岸・ガザでパレスチナ自治政府の首長と評議会（議会）議員を選出、

(ウ)暫定自治開始から3年以内にパレスチナの将来にかかわる重要問題（エルサレムの帰属、難民の帰還権、入植地の将来、国境など）を解決する最終地位交渉を開始し、

(エ)自治開始後5年をめどに両者が歴史的和解を達成する

パレスチナ自治政府の成立、西岸、ガザでの自治の開始以外は、実現できず

最大の課題：イスラエルによる入植地

占領中に住民の生活環境、地位を変更することは、ジュネーブ条約（国際法）違反

「入植地」を守るために、イスラエル軍の監視、防護壁の建設=パレスチナ社会の分断

エルサレム問題：西はイスラエル、東は「西岸」地区

本来なら東エルサレムは「西岸」なのでパレスチナ自治政府の管轄になるはずだが、イスラエル側はこれを先立って併合（国際法違反）

イスラエルは「併合」した東エルサレムも含めて統合されたエルサレムを「首都」であると主張（実際はテルアビブが首都）

アメリカの立場：パレスチナ・イスラエル問題については、仲介役を果たすも、基本的にイスラエル寄り

トランプ政権 娘婿のシクユナー氏は熱心なユダヤ人

1995年時点で、米議会、米大使館のテルアビブからエルサレムへの移転を決定、しかし実現されず→トランプ大統領、2017年12月に移転実施を宣言、5月に実施と